



先月は、十二日ふてんまつり、十三日観音祭、十四日御参詣歴史絵巻行列と大忙しの日程でした。こんな時は、大自然の中で、のんびりすると良いですね。

釈迦の生涯

良啓



誕生仏

仏教の開祖お釈迦様は、インド北方にある釈迦国の王子として産まれました。今から約二五〇〇年前の事です。

ある晩、母マヤー夫人は聖なる白象が胎内に入る夢を見て妊娠します。その後、お産の為に里帰りをする途中、ルンビニーの花園で花を摘もうとすると産気づき、伸ばした右手の脇から生まれと言われています。

そして、生まれた途端、七歩歩き、右手で天を指し、左手で地を指し「**天上天下唯我独尊**」と言いました。この言葉は「この世にいる誰もが等しく尊い。」と言う意味です。

その後、王子として不自由の無い暮らしを送っていましたが、ある日、城の四門から出掛けると、それぞれに老人・病人・死者に出会い、人生の無常を深く感じます。しかし、最後の門で修行者に出会い、その潔い姿に感動します。

この故事からも分かるようにお釈迦様は大変感受性が豊かな人であったようです。ですから、贅沢な暮らしや家族を捨てて、厳しい修行を選びました。そして、二九歳の時に城を抜けて修行の道に進みます。初めは難行苦行と呼ばれる激しい修行に没頭しますが、まったく人生の無常に対する心の安らぎを得られませんでした。そこで、木の下で瞑想をすると「悟り」を得ました。

その後、八十歳の生涯を閉じるまで、どのような身分の方でも分け隔てなく布教活動を行いました。

死後、遺体は火葬され、遺骨は仏舍利として、各地に安置されました。

弘法大師のことば

裕俊

しょうついで たい あら すいせい わ ぜひ
昇墜は他の意に非ず、衰榮は我が是非なり。

十住心論卷第二(定二・六五)

「天上界にのぼる・地獄におちるは他人の意志によるものではない。衰える、栄えるも全てその人の心が次第である。」

人は嫌な事が有ると、自分以外の何かのせいにしてしまいたくなる事があります。それで、他人を責めるといふ事は誰もが経験した事があるかと思えます。しかし、他人を責めて心が晴れるでしょうか？心のモヤモヤは残ったままではありませんか？

何故心が晴れないか。それは、自分にも原因があると気付いているからではないでしょうか。普段の生活から、全ての行いは自分に返ってくる、と心がけましょう。

今月のお茶 「からぎ茶」 奈緒子

沖縄北部で昔から飲まれているからぎ茶。

和名をオキナワニツケイと言い、シナモンの仲間です。シナモンは仏教では塗香等にも使われ、大変ゆかりのあるスパイスです。

カラギの葉は、消化促進、軽い頭痛、風邪の引き始めに効能があるようです。

秋になり涼しくなって参りました。風邪のはやる季節、からぎ茶でのんびりされてはいかがでしょう。

参考：華草ライフ体質改善編 吉川敏男（ハーブ・スパイス館 小学館）

※こちらで紹介したお茶は毎月、「神宮寺学ぶ会」にて提供させて頂いております。

❀11月の神宮寺❀

11/14～17 19時～ 楽市楽座公演
「はだかの王様」@駐車場 ※入場無料

❀来月の神宮寺❀

12/31 除夜の鐘突き 22時～整理券配布